

今回の英国訪問団には、中学生 11 人が参加した。
 国際性豊かな人材育成のためにも、今後の交流に対する期待が高まっている。
 初めての海外となった人も多かった中学生の皆さん。
 本宮の外の世界を目の当たりにし、何を感じ、何を考えたのか。

自分を見つめ直す

「チャンス」になった



市川 知愛さん
Tomoa Ichikawa

本宮第一中学校 3 年生
 福島庭園 5 周年記念式典
 でスピーチを務めた

英語のストレートな意思表示と響きが好きで、小学校 4 年生から英語を勉強していました。英語弁論大会に出場したこともありましたが、現地ではコミュニケーションがうまく取れなくて悩むこともありました。

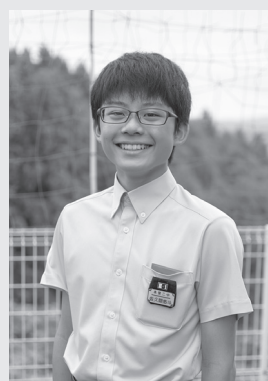
福島庭園 5 周年記念式典では、英語でスピーチをしました。内容によって声色を変えたり、間を空けて話すなど、自分なりに工夫しました。自分のぎこちない英語を真剣に聞いてくれ、現地の人

の心の広さを感じました。また、イギリスに行つて、自分の未熟さを知ることでもできました。将来は留学して、もっと英語を学びたいと思います。



今後の友好のために

「自分にできること」をしたい



佐久間 悠斗さん
Yuto Sakuma

本宮第二中学校 3 年生
 姉妹庭園締結記念のレセプションでスピーチを務めた

昨年、交流事業でベラルーシに行ったので、海外は 2 回目でした。テレビでグレンフェル・タワーの火災を見て、復興支援への恩返しをしたいという気持ちがあったので、哀悼の意を表することができ良かったです。

締結記念レセプションでは、英国訪問への抱負を英語で話しました。緊張して早口になってしまいましたが、自分の思いが伝わったうれしいです。福島と英国の懸け橋である両庭園が姉妹庭園

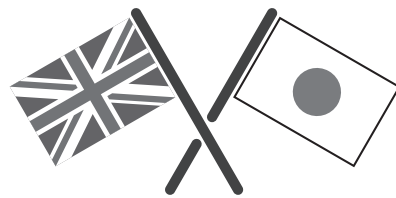
を締結することで、さらに絆が深まったことを感じました。日本とイギリスの親睦を深めていくためにも、自分に何ができるかを考え、行動していきたいです。





開かれた

英国への扉



高校生になったら、

「UCL」に留学したい



柴原 ももさん

Momo Shibahara

白沢中学校 3年生

姉妹庭園締結記念のレセプションでスピーチを務めた

UCLでの大沼教授による講演がとても興味深かったです。UCLが、今の日本の礎を築いた人たちに大きな影響を与えたことに驚きました。締結記念レセプションでは、震災後のたくさんの方の物資や救援に対する感謝と恩返しへの気持ちを話しました。英語でのスピーチは緊張しましたが、もっと英語を喋れるよう努力して、高校生になったら、絶対UCLに留学したいという思いが強くなりました。地元の生徒



と交流したり、海外の文化を学び視野を広げたいです。また、小学校1年生から現在まで空手をやっているの、海外にも空手を広めていきたいです。

交流はつづいていく



「未来へつなげる もとみや英国訪問団」の解団式は、8月9日、市役所で行われました。参加した中学生11人が一人一人、英国訪問の感想と自分自身の糧となったことを発表しました。

高松市長は、「国や県、地元市民など多くの協力があって実現できた。一人一人がこの交流を未来につなげるという大きな目標をもってこれからを過ごしてほしい」と語りました。

市民が参加する英国庭園サポーターの協力をいただきながら、11月初旬には待望の英国庭園がオープンします。今回深まった英国との絆を未来へ「つなぎ」、相互交流や情報発信、未来を担う子どもたちの人材育成に「つなげていく」ためには、私たち一人一人が力を合わせて、自分たちができることを進めていくことが大切になってきます。

